



宇都宮市立錦小学校 学校だより

# にしきの子

第10号 令和8年2月10日 発行者 校長 大森信二

学校教育目標（合言葉）

- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

## 学校保健給食委員会・食物アレルギー対策委員会

1月22日（木），学校医の遠藤先生，学校歯科医の五月女先生をはじめ，PTAの役員・体育委員・厚生委員・学級委員の委員長，副委員長の皆様にご参加いただき，令和7年度の委員会を開催しました。学校からは，養護教諭（保健主事）・食育主任・栄養士・体育主任・安全主任が参加し，それぞれの立場から本校の実態について説明をしました。その後，五月女先生から，「小児のう蝕」と題した講話がありました。遠藤先生からも，児童の健康管理について専門的なお話をいただくことができました。また，ご出席いただいたPTA役員の皆様からも建設的なご意見を多数いただきました。大変有意義な情報交換・情報共有の場となりました。皆様ありがとうございました。



## 第3回 授業参観・学級懇談会

1月28日（水），授業参観・学級懇談会を実施しました。6年生は，体育館で保護者へ感謝の気持ちと今後の決意を一人一人発表し，他の学年は，教室で算数や学級活動等の授業を行いました。学級懇談会は，一年間の児童の成長の様子や，次年度についての話し合いとなりました。



## 表彰朝会（全校）

2月4日（水），体育館で表彰朝会を行いました。今回も様々な分野で力を發揮し入賞を果たした児童を，全校生と教職員全員の前で表彰をしました。受賞した児童は以下のとおりです。

## 第3回 錦小学校地域協議会

協議内容は，今年度の活動報告・決算報告と次年度の活動計画・予算案について，保護者や地域の皆様にご協力いただきました学校評価アンケートの結果の報告と今後の取組について，あいさつ標語の入賞作品の報告についてでした。委員の皆様からは建設的なご意見を多数いただきまして，今後の学校経営の大きな力添えとなりました。

賞	作 品	ク ラス	氏 名
会長賞	さようなら 笑顔で言えたら あしたも笑顔	3-1	横田 瑛亮
校長賞	あいさつは 心をこめて 自分から	5-2	黒川 愛椰
優秀賞	かおをみて おおきなあいさつ うれしいな	1-1	石川 誠人
	あいさつで ぼくもみんなも いいきもち	1-2	長谷川翔生
	「おはよう」で 今日も一日 いい日になあれ	2-1	須山 瑞右
	「さようなら」 全員そろって またあした	6-2	手塚 雄大

名 称	賞区分	学年組	氏 名
栃木県学校教育書写書道作品展	硬筆の部	金賞	1-2 土田 離
	硬筆の部		2-1 加藤 宜
	条幅の部		3-1 飯島 優月
	半紙の部		3-2 佐藤花菜羽
	条幅の部		6-1 佐藤美日菜
第27回うつのみやジュニア芸術祭「ジュニア文芸」	短歌の部	金賞	3-2 佐藤花菜羽
	俳句の部		1-1 須山 菜
	俳句の部		6-2 枝 遥香
	俳句の部		6-1 星野孝太郎
	川柳の部		3-2 佐藤花菜羽
	川柳の部		6-1 佐藤美日菜
	平面の部	金賞	長谷川翔生
第18回大樹生命ヒーローズカップ	プレートトーナメント	準優勝	6-1 栗原 理
	カルビーお菓子コンテスト	かつてえびせんしか 勝たんで賞	6-2 植木ひまり

あいさつ標語は，会長賞1名，校長賞1名，優秀賞4名が受賞しました。左の作品は，東門と西門にそれぞれ掲示されます。

## 3年そろばん教室（講師：亀和田様）

3年生を対象に、1月13日（火）、15日（木）の2日間、そろばん教室を実施しました。講師は、本校同窓会長の亀和田公一様です。学年全体の講話では、そろばんの歴史や世界のそろばんについてのお話、ご自身が実際に訪問された世界各国での体験談などについて、大変貴重なお話をいただきました。その後各教室で、実際にそろばんを使い、基礎から丁寧にご指導をいただきました。亀和田様、大変お世話になりました。



## 新しい料理の発見は人類の幸福にとって天体の発見以上のものである

ブリア・サヴァランは、フランスの料理研究家で、フランスの食通にして大天才といわれた人物です。18世紀後半から19世紀初頭まで生き、ヨーロッパの全ての言語を話し、科学者、考古学者、文学者であったそうです。サヴァランの残した名著「美味礼讃」（びみらいさん）には、「君が何を食べるか言ってみたまえ。君が何者であるかを言い当てよう」や「新しい料理の発見は、新しい星の発見よりもはるかに人間の幸福に貢献しうる」などの名言が数多くあります。彼が求めた美食の真の目的は、腹を満たすというよりは心を満たす、あるいは知的好奇心を満たすことになったのではとも言われています。



家族の手料理である「お袋の味」や、家族が食卓を囲み食事をする「一家團欒」という言葉が消えつつあるという内容の新聞記事やコラム欄を目にすることがあります。実際に、朝食を食べないで登校してくる児童が多くいます。子供の健全な成長発達にとっては大きな問題と言えます。例えば、育ち盛りの子供が朝食を抜いて登校し、帰宅後はスナック菓子にジュース類、夜はカップラーメンやインスタント食品ということも現実にあるのではないかと思われます。40代からの病気の多くは、10代の食生活のツケが回ってきた結果であるという専門家もいます。やはり、手作りの食事を、家族と一緒に毎日しっかりと食べることが、子供の健全な成長発達と生きるエネルギー源になるものと思われます。私の母の料理は全体的に薄味でした。それ故、濃い味が好みの姑と口論していたこともあります。しかし、母の味付けが変わることはなく、薄味で素材の味を引き出した料理は



美味礼讃

PHYSIOLOGIE DU GOU  
ブルイエ・サヴァラン著  
玉村豊男編訳解説

Jean Anthelme Brillat-Savarin  
dinhdochi

どれもおいしく、まさに、私にとってのお袋の味でした。人間にとて食事は、肉体をつくる栄養であるとともに、心を育む栄養でもあります。特に、親が作る手料理やお袋の味は、親が子供に与える愛情であり、子供にとって、その後の人生を大きく左右するとても大切なものです。また、家庭における食事の場は、家族團欒の場であり、しつけの場でもあります。「個食」や「孤食」などという言葉がありますが、家庭生活の基本は食事であり、食事を抜きにして家庭生活は成り立たないと思います。時代が大きく変化しても、家庭における手作りの食事と“お袋の味”的重要性を再認識する必要があります。サヴァランは、「人間を幸福にする食事をおろそかにするな」、さらには、「人生を左右する食事を手抜きするな」と伝えたかったのではないでしょうか。



宇都宮市立錦小学校  
Utsunomiya City Nishiki Elementary School

本校のHPは日々更新しています。  
最新情報はHPでご確認ください。



にっこりえがお  
しっかりまなぶ  
きたえるからだ